

人権コーナー

新型コロナウイルスによる人権侵害

新型コロナウイルスによる感染拡大がなかなか止まらない中、感染者やその家族、ウィルスと闘う方々や社会生活を支える方々に対しての誹謗中傷やデマ等がSNS上に拡散していることに心を痛めます。

日本赤十字社の「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう～負のスパイラルを断ち切るために～」によると、新型コロナウイルスの怖さを、第1の“感染症”「病気」、第2の“感染症”「不安」、第3の“感染症”「差別」と3つの顔があるとしています。また、「この“感染症”の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながることで」と述べています。誰にでも目に見えないウィルスによる感染症は恐ろしく、不安に感じてしまいます。どうすれば負のスパイラルにならずに済むのでしょうか？日本赤十字社は、以下のようにまとめています。

○第2の“感染症”「不安」 気づく力、聴く力、自分を支える力を高めること

○第3の“感染症”「差別」 確かな情報を広めること、差別的な言動に同調しない

歴史を振り返れば、ハンセン病患者への偏見や差別が大きな悲劇を生み、その苦しみは未だに続いています。こうした歴史を正しく知りその教訓から、正しい言動をとることができます。長丁場になりそうなウィルスとの闘いの中で命やくらしを守るために、3つの“感染症”をみんなで乗り越えていきましょう。

感染者への誹謗中傷

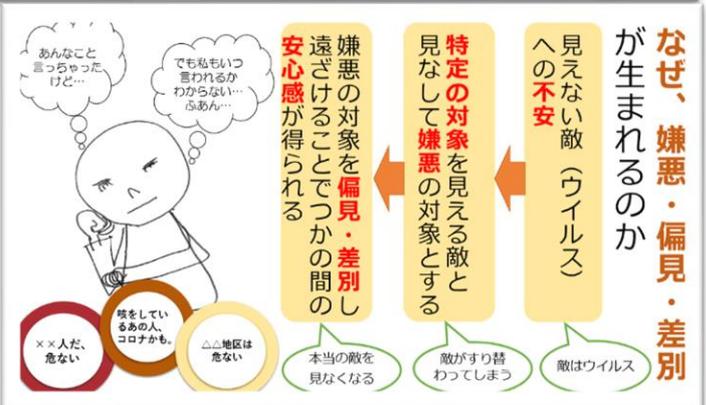
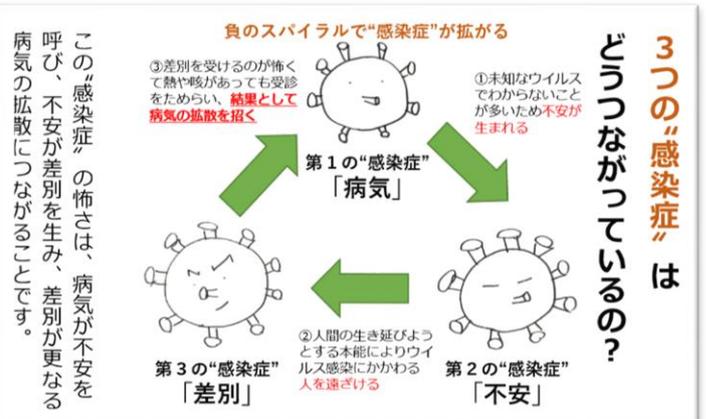
感染の危険性は誰にでもあり得ることで、感染したことを本人の落ち度や責任感の欠如の表れであるようにとらえるのは間違いです！

ウィルスと闘う方々や社会生活を支える方々への誹謗中傷

厳しい環境の中で奮闘する医療関係者の方々、小売業者や配送業などの社会生活を支えてくださっている方々に対しては、ねぎらいや敬意を表しましょう！

SNS上での誹謗中傷

「〇〇のお店の人が感染したようだ」  
 「〇〇人が危ない」  
 「〇〇がよく効くらしい」  
 ネット上に様々なデマや憶測が飛び交っています。偏見に同調することは止めましょう。



日本赤十字社HP <http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/>

直江津中学校区は、文部科学省委託人権教育研究推進事業の3年次となります。本年度は委託の最終年度となり、これまでの取組の総決算となります。この「人権コーナー」を活用して、本取組を紹介していきます。